

## ワッセルマン氏反應陰性ニ就テ

(「アルコホール」竝ニ「アルコホール」性料飲ノワッセルマン氏反應ニ對スル影響ノ試験管内實驗)

志 村 實 五

ワッセルマン氏微毒血清診斷ガ微毒ノ診斷上頗ル有意義ノモノニシテ且學問的ニ竝ニ社會的ニ缺クベカラザルコトハ既ニ確定セル事實ニシテ今更述ブル迄モナキコトナリ然レ共唯ワッセルマン氏反應ハ微毒ニ特有ナルモノニアラズシテ其他ノ疾患例ハ猩紅熱、「マラリヤ」等ニ往々陽性反應ヲ呈スルコトアリ故ニワッセルマン氏反應ノ陽性ナルヲ以テ必ズ微毒ナリト診斷スルハ早計ニ失スルモ患者ガ此等ノ疾患ノ既往ヲ知ラズ且現今ノ社會狀態竝ニ微毒ノ既往症等ニヨリワッセルマン氏反應陽性ナル場合ハ先ヅ第一ニ微毒ヲ疑ヒ殊ニ臨牀的症候ト一致セル場合ニハ微毒ト診斷スルモ大過ナカラント信ズ

之ニ反シテワッセルマン氏反應陰性ナル場合ニ非微毒ナリトスルノ誤リナルコトハ前者ニ比シテ幾倍ナルヤヲ知ラザルナリ何トナレバワッセルマン氏反應ハ種々ナル原因ニヨリ陽性ナルベキモノモ陰性ヲ呈スルコトアレバナリ而テ此陰性反應ノ原因ニ就テハ未ダ十分知ラレザルモ次ノ種々ナル諸件ハ陰性反應ヲ起サヌム或ハ起シ得ルモノナリ  
ワッセルマン氏反應ノ實施上陰性反應(血球溶解現象)ヲ呈セシムル原因

(一) 不熟練ナル人ノ検査

(二) 蒸留水及其他化學的藥品ノ混ゼル時(酒精、「エーテル」、「クロロホルム」、「リゾール」、昇汞、「アルカリ」、

石鹼、膽汁酸、「トルオール」、「サボニン」、「ゾラニン」、「ヂギタリン」、「チクラミン」等)

(三) 能動性ノ儘長時間放置セル血清ヲ使用シタル場合

- (四) 血清ヲ長時間日光光線ニ曝シ或ハ其他化學線ニ觸レシメタル時
- (五) 抗素ノ不良ナルモノヲ用キシ時
- (六) 補體ノ加重ナル時
- (七) 完全ニ補體結合ヲナサザル前ニ血球ヲ加ヘタル時
- (八) 食塩水ノ不良ナル時
- (九) 孵卵器ノ温度高キ時

以上ハ實施者ノ特ニ注意スベキ諸件ニシテ血清採取時ニ考フベキハ

- (一) 初期硬結ヲ生ゼシヨリ短時日ノ間即チ感染日尙ホ淺クシテ血液ニ變化ヲ來サザル場合
- (二) 驅微療法ヲ施シタル後(陰性ヲ呈スルコトアリ)
- (三) 重症ナル他ノ疾患或ハ熱性病ニ罹レル時(陰性ヲ呈スルコトアリ)
- (四) 食後直チニ採取セル血清(陰性ヲ呈スルコトアリ)
- (五) 患者自身ノ特異質
- (六) 血液採取時ニ採血器ノ汚染或ハ化學的藥品ニヨル採血血液ノ變化等

之等ニ就テハ既ニ一般ニ注意ヲ拂ハレツ、アルモワッセルマン氏反應ノ結果ハ未ダ十分ナル成績ヲ納メ得ズ微毒反應ノ一〇〇・%ハ陽性ナリトスルニ至ラザルナリ

今陽性率ヲ示セバ次ノ如シ

第一期微毒 (第一報告)

患者例	陽性數	陽性%	患者例	陽性數	陽性%
Arning	四八	二五	Fischer-Meier	八	六
Bering	五八	四七	Fleischmann	五	五

志村—ランセルマン氏反應陰性ニ就テ

Blaschko—Citron	1	90
Butler	4	100
Brubns—Halberstädter	9	88.9
Detere—Brezowski	43	21
		49

(第二報告)

Gelare	患者例	陽性數	陽性%
Bering	1	1	90
Feuerstein	1	1	39
Blumenthal	1	1	63.6
Hofmann—Blumenthal	11	1	9.1
Lederman	19	6	50
#	1	1	52.6
Lesser	46	31	65.2
Levaditi	56	39	69
Lüdke	13	6	46
Marcus	9	7	77
Meier	35	22	63
Müller	25	17	68
Schonefeld	14	5	45.5
	19	9	47

第二期徵毒 (第一報告)

Arning	患者例	陽性%
Bering	107	93
Blaschkocitron	113	98
	1	99

208

Gross—Volk	10	4	40
Hancken	17	15	88
Heller	26	1	38.5

Selter—Gronwen	患者例	陽性數	陽性%
Werter	18	14	77
Jordan	1	1	33
Hungel—Rueto	1	1	57.9
v. Brezowski	1	1	約30
Bruck—Stern	27	13	95.5
Berz	64	48	48.1
Grosser	20	19	71.6
土肥、伊東	99	42	95
土肥、中野	165	60	42.6
櫻橋、志賀、久保山	19	15	36.3
旭、徳永	1	1	78.9
筒井、高澤	44	32	68
松浦、松本	44	32	73
	28	8	40

Fischer—Meier	患者例	陽性%
Fleischmann	1	84
Gross—Volk	99	93
	1	84

Blumenthal—Roscher 一三一  
Butler 二五

(第一報告)

患者例	陽性數	陽性%
Bering	—	—
Basch	—	—
Gelarie	—	—
v. Brezowski	—	—
Maternilch	—	—
Blumenthal	—	—
Bluhns—Halberstädter	—	—
Feuerstein	—	—
Werther	—	—
Jordan	—	—
Heller	—	—
Hoffmann—Blumenthal	—	—
Ledermann	—	—
Lesser	—	—
Levaditi	—	—

Hancken 九八  
Haack 九六  
— 三八  
— 九二  
— 九一

患者例	陽性數	陽性%
Ludke	—	—
Marcus	—	—
Meier	—	—
Schonnefeld	—	—
Seler—Grouven	—	—
Bruck—Stern	—	—
Merz	—	—
Grosser	—	—
士肥、伊東	—	—
士肥、中野	—	—
櫻根、植實、久保山	—	—
旭、徳永	—	—
筒井、滝澤	—	—
松浦、松本	—	—

第三期微毒 (第一報告)

患者例	陽性%
Arning	—
Bering	—
Blaschko—Citron	—
Blumenthal—Roscher	—

患者例	陽性%
Heller	—
Hoffmann—Blumenthal	—
Ledermann	—
Lesser	—

志村—アッセルマン氏反應陰性ニ就テ

二〇九

Brunns—Halberstädter	一六	一〇〇		
Butler	一七	九四		
Fleischmann	四一	九八		
Gross und Volk	二七	六三		
Hancken	一七	一〇〇		
Hauck	一三	七七		

(第二報告)

患者例 陽性數 陽性%

Levaditi	八	六二	
Ludke	一四	七九	
Marcus	一一	九〇	
Meier	一	一〇〇	
Schonnefeld	五	一〇〇	
Selter—Grouven	一六	七五	

Bering (多發的發症)  
" (單發的發症)

Celarie				
v. Brezowski				
Fensterstein				
Blumenthal				
Werler				
Jordan				
Bruck—Stem	四七	二七	五七・四	

潜伏徵毒 (第一報告)

患者例 陽性數 陽性%

Bering	一四七	七〇	四八
Blaschko—Citron			
早期潜伏(四年)	六七	五四	八〇
晚期潜伏	五一	二九	五七
Blumenthal—Roscher			
早期潜伏(三年)	九五	四六	四八
晚期潜伏	三七	一五	四〇

患者例 陽性數 陽性%

Merz	一五八	一二七	八〇・三
Grosser	一九	一一	五七・八
士肥、伊東	一〇一	九五	九五・一
士肥、中野	六七	六一	九一
櫻根、志賀、久保山	三六	二七	七五
旭、徳永	一	一	七四
筒井、高澤	四三	四三	一〇〇
松浦、松本	五五	五四	九八・二

患者例 陽性數 陽性%

Butler	一五	八	五三
Fleischmann			
早期潜伏(四年)	四五	二九	六四
晚期潜伏	五五	一	四二
Gross—Volk	三五	六	一七
Hancken	二〇	一三	六五
Hauck	三一	二三	七四

(第二報告)

Brunns—Halberstädter	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(三年)	三九	一七	四四・三
晚期潜伏	八二	三三	二八

Heller	患者例	陽性數	陽性%
	四四	—	四七・七

Jordan	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	—	—	五九・三
晚期潜伏	—	—	四一・七

Lederman	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(五年)	七五	五一	六八
晚期潜伏	—	—	七五・六
			約三六・八

Werther	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	—	—	五七
晚期潜伏	—	—	四一

Lesser	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(四年)	一一八	七九	六七
晚期潜伏	四二五	一九六	四六

Blumenthal	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	—	—	六八
晚期潜伏	—	—	四一

Merz	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(二年)	二七二	九一	三三・四
晚期潜伏	四三〇	一三六	三〇・八

Bruck—Stern	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(四年)	五〇	一〇	二〇
晚期潜伏	七九	一六	二〇

Seller—Grouven	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	一五	一二	八〇
晚期潜伏	六	五	八三

小計	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏(四年)	一二九	二六	二〇
晚期潜伏	—	—	—

Grosser	患者例	陽性數	陽性%
以上三名ノ分合計	三五	一二	三三・三

Hofmann—Blumenthal	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	二三	一一	五二
晚期潜伏	—	—	—

以上三名ノ分合計	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	八六七	二六五	三〇・五
晚期潜伏	二〇六	一一五	五五・八

Marcus	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	三一	三	一三
晚期潜伏	—	—	—

土肥、伊東	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	一五三	六六	四三
晚期潜伏	—	—	—

Müller	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	八一	二九	三五・八
晚期潜伏	—	—	—

櫻根、志賀、久保山	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	四六	二九	六三
晚期潜伏	—	—	—

Schonefeld	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	二〇	一七	八五
晚期潜伏	—	—	—

旭、鐘永	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	—	—	—
晚期潜伏	—	—	—

松浦、松本(第二期潜伏)	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	三二	二二	六五・六
晚期潜伏	—	—	—

同上(第三期潜伏)	患者例	陽性數	陽性%
早期潜伏	一七	七	四一・二
晚期潜伏	—	—	—

志村—ロッケルマン氏反應陰性ニ就テ

先天微毒

二二二

患者例	陽性數	陽性%	患者例	陽性數	陽性%
Hoffmann-Blumenhal	一	—	士肥教監(第一回調査)	五	—
Arning	五	—	同(第二回調査)	五	—
Fischermeier	四	—	合計	一〇	—
Schonnefeld	三	—	櫻根、久保山	一	—
Ledermann	三	—	坂口	一	—
Linsler	一六	—		五	—
Halberstädter-Müller-Reiche	一八	—		二	—
	六八	—		四〇	—
	三〇	—			—

(此例ハ祖父母ガ  
數毒ナリシモノ)

(以上ハ中野氏ニヨル)

由是觀之第一期微毒ノ%數ノ少ナキハ説明シ得ルモ潜伏微毒其他ニ於ケル微毒ノ%數少ナキハ唯患者ノ特異質トシテ解釋スベキモノナルカ我ハ技術上ノ缺陷ナリヤ特ニ其高低ノ甚ダシキハ此所ニ何等カノ原因アラザル可カラズトノ疑念ヲ生ズルモノナリ

斯ノ如ク陽性率ノ比較的低キヲ認メラル、原因ニ就テハ其原因ノ奈邊ニ存スルカヲ講究シ唯ワツセルマン氏反應ハ微毒ニ特有ナラザル爲メトナサズ他ニ其原因ノ因テ來ルモノアリテ陽性率ヲ低メ居ラル、トナサバ吾人ハ對驅微策トシテ不幸ナリト云フベシ

然ルニ實際ニ於テワツセルマン氏反應ヲ多數患者ニ就テ検査スルニ臨牀上ノ症候ト一致セザル者ヲ往々認ムルコトアリ之レ果シテ如何ナル原因ノ其間ニ介在スルヤ即チワツセルマン氏反應ハ微毒特有ノ診斷法ニアラザル爲メト直チニ決定スベキカ或ハ更ニ他ニ陰性反應ヲ呈セシムベキ(前記原因以外)原因ノ存スルニアラザルヤト常ニ留意シスル場合ニハ或ハ患者ノ血清ニ對シ種々ノ對照試驗ヲ行ヒ或ハ抗素ノ検査等ヲ繰返シタルモ徒ラニ何等ノ得ル處ナカリキ然ルニ秦博士ノ「血清診斷法及血清採取上ノ注意」ナル論文ニ記載セラレタル内ニ左ノ一節ヲ一讀シタリ

「第三ニ注意スベキハ「アルコール」飲料ヲ攝取シタル後半日又ハ一日以内ハ往々陽性成績ノ消失スルコトアリ  
 余モ亦陽性ノ度ノ弱クナリタルコトヲ經驗セリ故ニ血清採取ノ前晚ハ晩酌ヲナサシメザル様ニスベシ」

此所ニ於テ思ヘラク飲酒後陽性反應ヲ陰性トナサシムルトセバ或ハ酒精飲料ノワッセルマン氏反應ニ及ボス影響ノ比較的大ナル意義ヲ有スルモノニ非ズヤト思ヒ爾來今日迄大ニ留意セシニ酒精飲料ヲ用キタル後再三ワッセルマン氏反應ヲ検査セシニ陰性ヲ呈スル患者アルヲ發見セリ該患者ハ聲音嘶嘎シ臨牀上歷然タル第二期微毒症狀ヲ有スルニ拘ラズ再三ワッセルマン氏反應検査ヲ行ヒタルニ常ニ陰性ヲ呈セリ然ルニ該患者ハ藝妓ニテ職業上毎夜飲酒セル者ナル故試ミニ絶對ニ飲酒ヲ禁ジ二日後ワッセルマン氏反應ヲ検査セシニ前陰性反應ト正反對ニ強度ノ陽性ヲ呈セリ(該患者ハ直チニ入院シ「サルバルサン」注射ヲ行ヒ約十日ニシテ前記症狀消失シ退院セリ)其他尙ホ斯ル事ヲ證明セル患者二三ニシテ止マラス

茲ニ於テ酒精飲料ノワッセルマン氏反應ニ及ボス影響ハ頗ル重大ナルベシト思料シ酒精飲料ノ血球溶解作用竝ニ人爲的ニ如何ナル影響ヲ與フベキカラ試験管内ニ於テ患者血清ヲ混和シ後ワッセルマン氏反應ヲ検査セシニ頗ル興味アル成績ヲ得タレバ左ニ表示セントス

純「アルコール」及「アルコール」性飲料ノ血球溶解作用

試験管 番號	〇・九%ノ 食鹽水	純「アルコ ホール」	血球乳劑	成績	「フランデー」「ウヰスキー」	日本酒	「ビール」	赤 酒
I	I.8	I	I	不溶解	不溶解	溶解	溶解	溶解
II	I	I	I	不溶解	不溶解	溶解	溶解	溶解
III	I	I	I	不溶解	不溶解	溶解	溶解	溶解
IV	I	I	I	不溶解	不溶解	溶解	溶解	溶解
V	I	I	I	不溶解	不溶解	溶解	溶解	溶解

志村一ワッセルマン氏反應陰性ニ就テ



VI	I	I	I	I	I	I	I	I
VII	I	I	I	I	I	I	I	I
VIII	I	I	I	I	I	I	I	I
IX	I	I	I	I	I	I	I	I
X	2	I	I	I	I	I	I	I
XI	0	I	I	I	I	I	I	I

純「アルコール」十  
倍ノモノ<sup>2</sup>  
溶解 溶解 溶解 溶解 溶解 溶解 溶解

故ニ純「アルコール」ハ十倍ニ於テハ溶血作用ナキモ五倍ニ於テハ既ニ血溶作用ヲ認ムルモノナリ「ウキスキー」、  
「ブランデー」等モ殆ド純「アルコール」ト同様ナルモ日本酒ハ二十倍ニ於テ溶血作用ナキモ十倍ニ於テ溶血作用ヲ  
呈シ赤酒、「ビール」ハ甚ダシク不同ナルモ二十倍以下ニ於テ溶血作用ヲ呈シ四十倍ニテハ溶血作用ヲ認メズ唯此際  
注意スベキハ食塩水ノ稀釋度ナリ何トナレバ食塩水ノ低調ナルモノハ單ニ食塩水其レ己ニテ溶血作用アレバナリ例  
へバ〇・八%ノ食塩水一c.c.ニ對シ〇・一ノ「アルコール」性飲料ヲ追加スルトセバ該食塩水ハ其レ丈低調トナル理ナ  
リ故ニ吾人ハ此試驗ニ際シテハ〇・九%ノ食塩水ヲ使用シタリ而シテ此食塩水ハ絶対ニワッセルマン氏反應ニ影響ナ  
キコトヲ確メタルモノナリ

茲ニ於テ思料セバ「アルコール」及「アルコール」性飲料ハ或ル稀釋度ニ於テハ溶血作用アルモ或ル稀釋度ニ於テ  
ハ溶血作用ナキコトナリ斯克單ニ思料スル時ハ頗ル興味薄クシテ既ニ記セル如ク化學的異物トシテ作用スルニ外ナ  
ラザルモ若シ「一方ニワッセルマン氏反應ガ抗毒素トシテ健康動物臟器ノ「アルコール」越幾スヲ用キ亦微毒ノ經過  
中其個體ノ「リポイド」ニ對シテ固有ノ抗體發生ス」ナルワッセルマン氏ノ第二假說ヲ思ヒ出サバ酒精飲料抗毒素、抗  
體、補體ハ或ハ何等カノ連結ヲ有スルニ非ザルカ、此所ニ於テ吾人ハワッセルマン氏反應陽性患者ノ血清ニ溶血作用  
ナキ程度ノ酒精飲料ヲ追加シ解卵器内ニ三十乃至六十分間入レ然ル後再ビワッセルマン氏反應ヲ行ヒ本試驗ト對照  
セルニ「アルコール」性飲料ヲ追加シタル血清反應ハ前反應ト正反對或ハ陽性ノ程度ノ弱メラレタル成績ヲ擧ゲタ

リ左ニ之ヲ表示セント欲ス

ワッセルマン氏法トシテ吾人ハ常ニランドスタイネル氏ニ從ヒ「モルモット」ノ「アルコホール」浸出越幾斯ヲ用キタリ  
依テ先ヅ心臟越幾斯ノ豫備試驗ヲ行ヒタリ

心臟越幾斯ノ検査

試験管番號	○・九%食鹽水	心臟「エキス」	補體	溶解素	五%血球乳劑	成績
I	0	0.5	0	I	I	不溶解
II	0.5	0.25	0	I	I	不溶解
III	0.75	0.25	0	I	I	不溶解
IV	0.875	0.125	0	I	I	不溶解
V	0.9375	0.0625	0	I	I	不溶解
VI	0.5	0	0.5	I	I	溶解
VII	0	0.5	0.5	I	I	溶解
VIII	0	I	0	I	I	不溶解
IX	I	0	0	I	I	不溶解
X	2	0	0	0	I	不溶解

附記、心臟越幾斯ハ「モルモット」ノ心臟ニ對シ無水「アルコホール」九C.C.ヲ加ヘ(十倍浸出液)乳鉢内ニ於テ越幾斯ヲ製シ良ク振盪シテ瓶中ニ貯ヘ用ニ臨ミテ○・八五%乃至○・九%ノ食鹽水ニテ四乃至五倍ニ稀釋シタルモノヲ用フ而シテ尙ホ右心臟越幾斯ハ其○・五C.C.ニ於テ徹毒患者血清ト結合シ溶血作用ヲ完全ニ抑制シ其倍量ヲ用フルモ非徹毒患者ノ血清トハ絶對ニ血球溶解作用ニ影響ナキモノナルコトヲ認メタリ

次デ検査ノ順序トシテ「アルコホール」性飲料ト心臟越幾ストノ混合液トガ血球溶解現象ヲ呈スルヤ否ヤヲ檢セシニ此等現象ヲ呈セザリキ

試験管番號

心臟越幾斯及「アルコホール」性飲料混合液ノ血球溶解作用

○●九%ノ食鹽水ニテ稀釋セル純「アルコホール」或ハ「アルコホール」性飲料

心臟「エキス」

補體

溶解素

血球乳劑

成績  
不溶解

試験管番號	食鹽水ニテ稀釋セル純「アルコホール」或ハ「アルコホール」性飲料	心臟「エキス」	補體	溶解素	血球乳劑	成績
I	I	I	○	○	I	不溶解
II	I	I	○	○	I	〃
III	I	I	○	○	I	〃
IV	I	I	○	○	I	〃
V	I	I	○	○	I	〃
VI	I	I	○	○	I	〃
VII	I	I	○	○	I	〃
VIII	I	I	○	○	I	〃
IX	I	I	○	○	I	〃
X	I	○	○	○	I	〃
XI	○	2	○	○	I	〃
XII	0.5	0.5	○	0.5	I	溶解
XIII	○	○	○	○	I	不溶解

○●九%食鹽水<sup>2</sup>

溶解 不溶解

附記、純「アルコホール」以外ノ酒精飲料ハ各同試験ヲ行ヒタリ

以上ノ試験ニ於テ純「アルコール」竝ニ酒精飲料ガ或ル稀釋度ニ於テハ單獨竝ニ心臟越幾スト共ニ注加スルモ血球竝ニ補體ニ對シ何等ノ作用ヲ與ヘザルコトヲ知リタリ依テ陽性血清ニ對スル試験管内反應ヲ檢査シタリ

注加「アルコール」竝ニ「アルコール」性飲料ノワッセルマン氏反應試驗

試験管番號	酒精飲料ヲ加ヘタル食鹽水	可檢血清	心臟「エキス」	補體	溶解素	血球乳劑	成績
I	1.6	I	I	I	I	I	溶解
II	I	I	I	I	I	I	"
III	I	I	I	I	I	I	"
IV	I	I	I	I	I	I	"
V	I	I	I	I	I	I	"
VI	I	I	I	I	I	I	"
VII	1.6	I	I	I	I	I	"
VIII	I	I	I	I	I	I	"
IX	2	I	I	I	I	I	不溶解
X	2.5	I	I	I	I	I	溶解
XI	I	I	I	I	I	I	不溶解
XII	〇	〇	〇	〇	〇	I	"
XIII	〇	〇	〇	〇	〇	I	"

二〇倍酒精注加  
食鹽水 I  
〇・九%食鹽水 3'  
〇・九%食鹽水 5

37°:30分—60分加温

37°:2時間加温

志村—ワッセルマン氏反應陰性ニ就テ

志村一ツツセルマン氏反應陰性ニ就テ

精酒純	「ルイビ」	酒赤		「キスキウ」	「アデンラア」	酒本日		酒者類	患
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	森	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	小山	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	末廣	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	三次	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	木佐々	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	大黒	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	小山	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	西野	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	小柳	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	大西	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	片山	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	松岡	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	横山	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	安藤	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	木村	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	矢萩	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	酒井	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	森下	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	下	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	莊	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	有吉	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	太田	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	山本	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	片山	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	谷口	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	藤井	
---	+++	---	+++	---	+++	---	+++	原	

右方ハアツセルマン氏反應、左方ハ酒精飲料注加後ノアツセルマン氏反應

上表ノ如キ式ニテ施行シタル試験ノ結果ニヨレバワッセルマン氏反應ハ其強陽性弱陽性ノ論ナク試験管内ニ於テ「アルコホール」竝ニ「アルコホール」性飲料ヲ注加シ再度ノワッセルマン氏反應ヲ檢スル時正反對或ハ陽性ノ程度ヲ弱ムルモノ、如シ之レ果シテ何ガ爲メナルカ先ニ曰ヘル如ク單ニ「アルコホール」及其製劑ノ異物の作用ナルカ果タ又アル「コホール」竝ニ抗素、抗體、溶血球系ハ免疫學上何等カノ意義ヲ有スルモノニアラザルヤ暫ク疑問ナルモ兎ニ角「アルコホール」飲料ガ人體ノ抵抗ヲ弱ムルコトハ事實ナリ而シテ諸學者ノ文獻ニヨルニ「アルコホール」ハ抗體ノ破壞、造抗原ノ破壞、細胞ノ抗體形成量ノ減弱及「アルコホール」飲用ニヨリテ新陳代謝機能旺盛トナリ從テ抗體ノ排泄量モ増加スルト云ハル然ル時ハ茲ニワッセルマン氏反應陽性タルベキ微毒患者ガ今「アルコホール」飲料ヲ攝取シ爲メニ身體ノ抵抗ヲ弱メ抗體ノ減弱ヲ來シ從テ補體ノ吸收作用モ減弱ヲ來ス然ル時ハ補體吸收十分ナラザル爲メ溶血球系ト補體トノ結合スルニヨリ陽性タルベキモノモ陰性ヲ呈スルニ至ル可シ今ハ唯ワッセルマン氏反應ガ「アルコホール」ヲ攝取セル後ニ陽性タルベキ患者血清ガ陰性成績ヲ呈シ或ハ陽性ノ程度ヲ弱メシムルコトアルヲ以テ

### 結論ス